

公表

児童発達支援事業所における自己評価結果

事業所名		株式会社プライムケアマネジメント A-Z KID'S		職員 6 名		公表日		2025年 4月 5日	
		チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点			
環境・体制整備	1	利用定員が発達支援室等のスペースとの関係で適切であるか。	2	4	・運動スペースと学習（手遊び）スペースは確保している。 ・公園、ドライブに行きたいこどもは連れていき、スペースを確保している。	運動スペースと仕切りがないため、安全面には十分注意が必要である。曜日によってはMAX定員になるとスペースが狭く感じることがある			
	2	利用定員やこどもの状態等に対して、職員の配置数は適切であるか。	3	3		日によっては、休みが取れないことがあり、改善の必要性を感じる。目を離せない児童の受入れ要請もあるため今後に向けて増員を検討したい			
	3	生活空間は、こどもにわかりやすく構造化された環境になっているか。また、事業所の設備等は、障害の特性に応じ、バリアフリー化や情報伝達等、環境上の配慮が適切になされているか。	6						
	4	生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっているか。また、こども達の活動に合わせた空間となっているか。	5	1		活動内容によって空間を上手に使っていきけるように、環境を整えたい。			
	5	必要に応じて、こどもが個別の部屋や場所を使用することが認められる環境になっているか。	6		個室は1室のみだが、必要となった場合には個別で使ってもらっている	狭い空間なため孤立しないように、頻繁に声掛けを行う。			
業務改善	6	業務改善を進めるための PDCA サイクル(目標設定と振り返り)に、広く職員が参画しているか。	3	3	開業より1年半のため、こどもの増員に合わせて日々模索している。	業務を行い上で気になる点があれば、都度職員共有していき、業務改善に務める。			
	7	保護者向け評価表により、保護者等の意向等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	5	1	評価表等の意見を把握し対応している	すべての職員共有に至らなかったため、今後は保護者意見（評価表等）も掲示していつでも見れる環境で周知していく。			
	8	職員の意見等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	6		小人数の職員のため、都度意見は言える環境にある。	シフトにより連絡漏れのないように環境を整える			
	9	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげているか。		6		第3者評価はうけていない			
	10	職員の資質の向上を図るために、研修を受講する機会や法人内等で研修を開催する機会が確保されているか。	3	3	法人主催の研修、身体拘束や人権研修など法廷研修を定期的に行っている	事業所での研修も今後は予定していく。			
適切な支援の提供	11	適切に支援プログラムが作成、公表されているか。		6	今年度より支援プログラムをホームページに掲載する予定	公表するための取り組みを進める			
	12	個々のこどもに対してアセスメントを適切に行い、こどもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、児童発達支援計画を作成しているか。	6		日々の支援や保護者の方の情報等を含めてのニーズや課題を分析し計画作成を行う。	個々のこどものニーズを職員間で検討し、支援計画を作成していく			
	13	児童発達支援計画を作成する際には、児童発達支援管理責任者だけでなく、こどもの支援に関わる職員が共通理解の下で、こどもの最善の利益を考慮した検討が行われているか。	6		職員間の情報共有にて、児童一人一人に応じた支援内容を検討している	見守り環境の中でも、できることへの促しを行い、児童の成長を見守ります。			
	14	児童発達支援計画が職員間に共有され、計画に沿った支援が行われているか。	6						
	15	こどもの適応行動の状況を、標準化されたツールを用いたフォーマルなアセスメントや、日々の行動観察なども含むインフォーマルなアセスメントを使用する等により確認しているか。		6					
	16	児童発達支援計画には、児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」の「本人支援」、「家族支援」、「移行支援」及び「地域支援・地域連携」のねらい及び支援内容も踏まえながら、こどもの支援に必要な項目が適切に設定され、その上で、具体的な支援内容が設定されているか。	6						
	17	活動プログラムの立案をチームで行っているか。	6			事例検討の実施を増やして、職員間で共有していく			
	18	活動プログラムが固定化しないよう工夫しているか。	6		職員間で意見を出しながら、室内だけでなく、野外での活動も多く取り入れ、様々なことを経験できるようにしている。	固定化しないように情報収集していく。			

	19	こどもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせる児童発達支援計画を作成し、支援が行われているか。	3	3		一人一人の個別活動には、職員体制にも限度があるため、対応が難しい点もある。短期目標に添った支援をしていきたい
	20	支援開始前には職員間で必ず打合せを行い、その日行われる支援の内容や役割分担について確認し、チームで連携して支援を行っているか。	6		毎朝ミーティングを行い、連携を行っている	
	21	支援終了後には、職員間で必ず打合せを行い、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有しているか。	6			
	22	日々の支援に関して記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげているか。	6			
	23	定期的にモニタリングを行い、児童発達支援計画の見直しの必要性を判断し、適切な見直しを行っているか。	6		半年に1度モニタリングを行っている	頻繁に見直しは出来ていないが、必要に応じて行えるようにしていく
関係機関や保護者との連携	24	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議や関係機関との会議に、そのこどもの状況をよく理解した者が参画しているか。	5	1	児童発達管理者が主に参画しているが、現場の状況で可能であれば担当者の参画としている	担当職員に限らず状況が理解できるようにしていく 自主的にもその場をもうけていく
	25	地域の保健、医療（主治医や協力医療機関等）、障害福祉、保育、教育等の関係機関と連携して支援を行う体制を整えているか。	6		学校や事業者等、連携できるように現在取り組んでいる。医療機関の連携は現在対象者はいない。	
	26	併行利用や移行に向けた支援を行うなど、インクルージョン推進の観点から支援を行っているか。また、その際、保育所や認定こども園、幼稚園、特別支援学校(幼稚部)等との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っているか。	6		多様な人材が尊重され、差別なく受け入れる環境は法人事業における課題であるため、成長過程の視野として取り組む。	支援事業の情報共有に取り組む
	27	就学時の移行の際には、小学校や特別支援学校(小学部)との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っているか。	6			
	28	(28～30は、センターのみ回答) 地域の他の児童発達支援センターや障害児通所支援事業所等と連携を図り、地域全体の質の向上に資する取組を行っているか。				
	29	質の向上を図るため、積極的に専門家や専門機関等から助言を受けたり、職員を外務研修に参加させているか。				
	30	(自立支援)協議会こども部会や地域の子ども・子育て会議等へ積極的に参加しているか。				
	31	(31は、事業所のみ回答) 地域の児童発達支援センターとの連携を図り、必要に応じてスーパーバイズや助言等を受ける機会を設けているか。	6		・こども食堂に参加している ・地域イベントに参加している	
	32	保育所や認定こども園、幼稚園等との交流や、地域の中で他のこどもと活動する機会があるか。		6		
	33	日頃からこどもの状況を保護者と伝え合い、こどもの発達の状況や課題について共通理解を持っているか。	6		送迎の際に、日常の状況や事業所での活動報告を行います。また面談やLINE等で気軽にご連絡をいただける環境をご提示して	
	34	家族の対応力の向上を図る観点から、家族に対して家族支援プログラム(ペアレント・トレーニング等)や家族等の参加できる研修の機会や情報提供等を行っているか。	1	5	現段階で家族支援プログラムを希望している方はいない	事業所でのペアレント・トレーニングをいずれは実施したい。
	35	運営規程、支援プログラム、利用者負担等について丁寧な説明を行っているか。	6		契約時に説明を行っている	
	36	児童発達支援計画を作成する際には、こどもや保護者の意思の尊重、こどもの最善の利益の優先考慮の観点を踏まえて、こどもや家族の意向を確認する機会を設けているか。	6			
	37	「児童発達支援計画」を示しながら支援内容の説明を行い、保護者から児童発達支援計画の同意を得ているか。	6			
	38	定期的に、家族等からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、面談や必要な助言と支援を行っているか。	6			

保護者への説明等	39	父母の会の活動を支援することや、保護者会等を開催する等により、保護者同士で交流する機会を設ける等の支援をしているか。また、きょうだい同士で交流する機会を設ける等の支援をしているか。		6	現在において、父母会またはきょうだいのコミュニティをごちらが用意することを行っている	
	40	こどもや保護者からの相談や申入れについて、対応の体制を整備するとともに、こどもや保護者に周知し、相談や申入れがあった場合に迅速かつ適切に対応しているか。	6		保護者からの意見は常時聞くようにしている。何かの要望があった場合はできる限りの対応をさせて頂いています。	
	41	定期的に通信等を発行することや、HPやSNS等を活用することにより、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報をこどもや保護者に対して発信しているか。	6		ホームページの活用は行えていないが、SNSの発信やLINEにて活動連絡を行っている	
	42	個人情報の取扱いに十分留意しているか。	6			
	43	障害のあるこどもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしているか。	6			
	44	事業所の行事に地域住民を招待する等、地域に開かれた事業運営を図っているか。		6	地域の方を招待する等は、スペースの問題もあり、こどもの安心安全のためにも現在は行っていない	事業所として検討の余地があるかは今後の課題とする
非常時等の対応	45	事故防止マニュアル、緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等を策定し、職員や家族等に周知するとともに、発生を想定した訓練を実施しているか。	6		各マニュアルは策定しいつでも閲覧ができるようにしています。	
	46	業務継続計画（BCP）を策定するとともに、非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っているか。	4	2	専門の方に来ていただき、備品を備えている（2月実施）	定期的に避難訓練を行っていきいたい 新しい職員に伝えていく
	47	事前に、服薬や予防接種、てんかん発作等のこどもの状況を確認しているか。	6		契約時のモニタリングで必ず確認を行い、服薬に関しては、できるだけ自宅服用をお願いしている。	てんかん発作など、様々な想定を検討できるよう研修を行っていく
	48	食物アレルギーのあるこどもについて、医師の指示書に基づく対応がされているか。	6		利用前の聞き取りを行い、配慮が必要な場合は、職員間で共有している	保護者からの情報をもとに対応行う。
	49	安全計画を作成し、安全管理に必要な研修や訓練、その他必要な措置を講じる等、安全管理が十分された中で支援が行われているか。	6		安全計画を作成している	
	50	こどもの安全確保に関して、家族等との連携が図られるよう、安全計画に基づく取組内容について、家族等へ周知しているか。	6		安全計画を掲示している	
	51	ヒヤリハットを事業所内で共有し、再発防止に向けた方策について検討をしているか。	6			
	52	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしているか。	6		虐待防止のための研修を行っている	
	53	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、こどもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、児童発達支援計画に記載しているか。	6		保護者に説明し同意を得ている	